

# LIBRARY

## ライブラリー No.93



茨城県立神栖高等学校 図書委員会 令和3年12月23日発行

人生を変えた本

おすすめの本

先生方の！

地歴公民科編

石川知明先生

井上浩一『ビザンツ皇妃列伝』



大学院の指導教官の著作です。この本を読んで、浩一先生の門下になるために手紙を書いたら、すぐに返事が来て京都大学の時計台記念館でお会いしました。ビザンツ帝国の歴史家は、女性のことに言及することが稀なので、本書の執筆には相当苦労したと思います。私が好きな章は最終章です。最後のビザンツ皇帝コンスタンティノス11世の母が主人公です。彼女はほとんど史料には出てこないのですが、その人物描写には温かみがあり、浩一先生の人となりが出ているのが好きです。年に1回は本棚から出して読み返し、そのたびに、厳しくも丁寧に指導してくれた先生のことを思い出すのです。

若槻礼次郎  
『古風庵回顧録一明治・大正・昭和  
政界秘史』



昭和初期に首相を歴任した若槻礼次郎の回顧録。本書は若槻の生い立ちから終戦後までを書いています。若槻の東大時代、東条英機との論戦の箇所が特に面白いです。

高林拓也先生

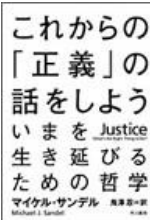
新島襄(新島襄全集編集委員会編)『新島襄全集』



京都にある同志社大学を設立した新島襄が残した手紙や日記を集めた書物です。もともと、2013年の大河ドラマ「八重の桜」に登場したオダギリジョー演じる新島襄を見て、「この人カッコいい!」と思っていたところに、当時大学でお世話になっていた教授の研究室でこの本を見つけ、卒業研究で新島襄について調べました。

新島襄は、教育を通じて知識ばかりではなく、キリスト教に根差した心の豊かさも追い求めました。(今風に言えば、勉強さえできればいいわけではなく、人間性も磨こうねという感じ。)このような新島の思想は、教育に対する私の考えに大きな影響を与えています。大学を卒業した私は、もっと教育について学びたいと思い、今では茨城で教員をやっています。教員としての私をつくり上げてくれた大切な本です。

マイケル・サンデル  
『これからの「正義」の話をしよう』



「あの人の言っていることはよくわからない」「自分とは違う」と思うことは人間誰しもあります。異なる考えを持つ他者と接する中で、私たちはいかに共生していくことができるのか。本書は、この問いに対する視座をこれまでの哲学思想を読み解きながら与えてくれます。難しい話は抜きにして考えてみよう、「どうやったら世界はよくなるの?」と。

池田駿先生

宮崎駿『漫画版「ナウシカ」全7巻』



人生を変えるほどの本にはまだ出会っていませんので、私の価値観の形成に多大な影響を与えてくれた本を紹介します。漫画版はあまり知られていませんが、SF好きには是非読んでほしい名作。人間とは何か、なぜ生まれてきたのか、固定観念を根底から覆され、その意味を深く考えさせられます。漫画版を最後まで読むと、核問題や戦争に対する訴え、そして人間の善悪の心の葛藤を描いた作品ではないかと感じます。

弘兼憲史「島耕作」シリーズ



大手企業でバリバリと仕事をこなした上で社会、会社の不条理なシステムに迎合せず信念を貫く。困難にぶち当たっても行く先々で出会う女性に助けをもらいながら、結果を出し続けて出世していく。大雑把ですが島耕作はこんな人物です。嘘偽りのない自分を社会が認めてくれて成り上がっていく。そんな島耕作の夢のようなサクセスストーリーは読んでいて爽快です。

市原治先生

ショーン・エリス ペニー・ジューノ  
小牟田 康彦(訳)  
『狼の群れと暮らした男』



ロッキー山脈の森の中に野生狼の群れとの接触を求め、決死的な探検に出かけた著者。飢餓・恐怖・孤独感を乗り越え、ついには現代人としてはじめて野生狼の群れに受け入れられ共棲を成し遂げた体験。我々はペットと家族のように生活していますが、著者はその反対で、大変な困難を乗り越えて生活したところが立派。「どこの社会にも共通するところがある」

加藤俊徳『大人の発達障害』



なるほどと思わせる内容で、読みやすくわかりやすい一冊。自分自身を知ることができ、少し相手の思考を知ることができます。人間観察の幅が広がります。

理科編

戸村文隆先生

伊坂幸太郎『アヒルと鴨のコインロッカー』



最近全く本を読んでいませんが、大学生の頃は時間があつたので、伊坂幸太郎さんの本を何冊か読みました。伊坂幸太郎さんの作品は、宮城県の仙台を舞台にしていることが多く、作品を読んでいると仙台の街が非常によく描写されていることが分かり、印象に残っています。また、作品ごとに微妙に話がつながっているものもあり、色々な作品を読みたくります。

つづく…!!